

敷島町文化財調査報告第17集  
(山梨県)

# 埋蔵文化財試掘調査年報 '04

2004

敷島町教育委員会

敷島町文化財調査報告第17集  
(山梨県)

# 埋蔵文化財試掘調査年報 '04

2004  
敷島町教育委員会

## 序 文

敷島町は隣接する竜王町と双葉町との3町合併により本年8月をもって50年にわたる長い歴史に幕を締じることとなります。

これまで、本町で進めてきました文化財保護行政については9月から新たに「甲斐市」へと引き継がれることとなっています。

本町では、昭和52年の『金の尾遺跡』の調査を契機とし、文化財保護の取り組みがなされ、以来町南部の扇状地上に古代の人々の足跡が数多く残されていることが明らかとなっていました。代表的な遺跡には、白鳳時代の古代窯である天狗沢瓦窯や平安時代の大集落である松ノ尾遺跡や村続遺跡の発見など、山梨県の歴史を語る上で貴重な発掘調査が続きました。

近年では、宅地造成や大型店舗建設などの開発事業が益々増えてきており、本年度は過去最高の数に上っています。そのため、行政として埋蔵文化財の保護が急務となっています。

このような状況のもと、平成15年度に文化財保護対策事業として国、県から補助を受け包蔵地域上における開発に先立ち、埋蔵文化財の遺存状況把握のための試掘調査を実施してきました。

ここに刊行しました年報は、その調査結果をまとめたものとなっております。

今後も、開発によって消滅を余儀なくされる文化遺産を保護し、後世に伝え教育普及へと役立たせることが私たちに課せられた責務と考えております。

最後になりましたが、本年度の敷島町文化財保護、保存対策に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に深謝いたし、序といたします。

平成16年3月

敷島町教育委員会

教育長 山口正智

## 例 言

1. 本年報は、山梨県中巨摩郡敷島町における埋蔵文化財試掘調査に関する報告書である。
2. 試掘調査および整理調査は、文化庁・山梨県より補助金を受けて敷島町教育委員会が実施した。
3. 本年報の執筆は、第1章を大鳥正之、第2・3章を小坂隆司が担当した。  
遺物の写真撮影および本年報の編集は小坂が行った。
4. 試掘調査で得られた出土品およびすべての記録は、敷島町教育委員会に保管してある。

5. 試掘調査の実施および本書作成にあたる次の方々よりご教示、ご協力をいただいた。  
ここにご芳名を記して感謝申し上げる。

中込司郎、坂本美夫、羽中田壯雄、畠大介（敷島町文化財審議会）

三田村美彦（山梨県埋蔵文化財センター）

平野 修（山梨文化財研究所）

閑間俊明（韮崎市教育委員会）

順不同・敬称略

## 凡 例

1. 遺物挿図中、断面白抜きは土器・土師質土器、■は須恵器、■は陶器類、■は磁器類である。  
また、器面の■は赤彩、土器内面の■は黒色処理を表す。

## 調 査 組 織

調査主体 敷島町教育委員会 教育長 山口正智

調査事務局 敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係

長田 徳一（生涯教育課長）

下 笹 俊彦（生涯教育課社会教育係主幹係長）

海野 元巳（生涯教育課社会教育係主任）

調査担当者 大鳥 正之（生涯教育課社会教育係副主査）

小坂 隆司（生涯教育課社会教育係嘱託）

調査・整理 青山制子・飯室久美恵・石川弘美・長田由美子・小林明美

参 加 者 望月典子・高添美智子・保延 勇・望月典子・森沢篤美・関本芳子  
堤 吉彦

# 目 次

## 序 文

## 例 言

## 調査組織

I	平成15年度(2003)埋蔵文化財保護行政概要	2
II	各遺跡試掘調査概要	5
a.	松ノ尾遺跡①	5
b.	松ノ尾遺跡②	6
c.	村続遺跡①	7
d.	松ノ尾遺跡③	8
e.	大塚遺跡	10
f.	末法遺跡	12
g.	三昧堂遺跡	13
h.	村続遺跡②	15
i.	広域農道(牛句・亀沢地内)	16
j.	石原田遺跡	18
III	まとめ	20

# 挿 図 目 次

第1図	試掘調査地点位置図	3
第2図	松ノ尾遺跡①位置図	5
第3図	松ノ尾遺跡①調査区	5
第4図	松ノ尾遺跡②位置図	6
第5図	松ノ尾遺跡②調査区と出土遺物	6
第6図	村続遺跡①位置図	7
第7図	村続遺跡①調査区と出土遺物	7
第8図	松ノ尾遺跡③位置図	8
第9図	松ノ尾遺跡③調査区	8
第10図	松ノ尾遺跡③ 1号住居跡と出土遺物	9
第11図	松ノ尾遺跡③ 2号住居跡と出土遺物	9
第12図	大塚遺跡位置図	10
第13図	大塚遺跡調査区	10
第14図	末法遺跡位置図	12
第15図	末法遺跡調査区	12
第16図	三昧堂遺跡位置図	13
第17図	三昧堂遺跡調査区	13
第18図	三昧堂遺跡 1号住居跡と出土遺物 2号土坑出土遺物	14
第19図	三昧堂遺跡 1号溝状構と出土遺物	14
第20図	三昧堂遺跡 構外出土遺物	14
第21図	三昧堂遺跡 2号溝状構と出土遺物	14
第22図	村続遺跡②位置図	15
第23図	村続遺跡②調査区と出土遺物	15
第24図	広域農道調査位置図	16
第25図	広域農道調査区A	17
第26図	広域農道調査区B	17
第27図	石原田遺跡位置図	18
第28図	石原田遺跡調査区位置図	18
第29図	石原田遺跡調査区A	18

# 表 目 次

第1表	平成15年度試掘調査一覧	4
-----	--------------	---

## I 平成 15 年度(2003)埋蔵文化財保護行政概要

### 平成 15 年度状況概要

本町の町域は、南北 15 km、東西 4 km と南北に細長い帯状を呈しており、その約 8 割が急峻な地形の山間地となり、2 割が丘陵と扇状地で形成されている。

敷島町の包蔵地域分布図を概観すると、その 74% が島上条、中下条、大下条といった扇状地上に集中していることが分かる。この僅かな平坦地が市街地として発展し、人口も急激に増加している地域なのである。

敷島町内における開発事業等の状況は、県都甲府市の隣接地という地の利と、県道甲府・敷島・韭崎線や中下条・甲府線、敷島・田富線、さらには中央本線竜王駅など交通網の発展によって商業施設、住宅施設などの民間開発を主体とした大小を問わない開発が頻繁に行われるようになってきている。特に田畠を貰くかたちで建設された都市計画街路愛宕町・下条線の共用開始後は路線周辺の開発が著しく行われるようになってきており、平成 11 年度よりその影響が大きく現れている。本年度は昨年度より埋蔵文化財保護対応件数が大幅に増加し、文化財保護法にともなう措置は 14 年度を上回り過去最高となった。

今年度の開発内容の特徴は、昨年度までの開発行為の主体であった宅地造成事業の比率が減少し、道路建設、マンション、商業施設といった特定施設に偏重しないことが挙げられる。また 14、15 年度に開発された宅地分譲地の個人住宅建設の増加や盛土による保護行為を行った建物建設が増え、立会い、慎重工事の指導件数も大幅に増加した。

このような開発が頻繁に行われている町南部地域に、本町の 70% を超える遺跡包蔵地が重なっており、今後もこの状況は続くものと推察される。

### 今後の取り組み

文化庁の統計資料による数値とは相反して、敷島町での発掘調査原因の 80% は民間開発によるものである。しかもその大部分が相続に関係するものであり非常にデリケートな側面を抱えている。このような状況下での調査案件では、包蔵地の問い合わせがあった時点からすべての問い合わせに対して整合性のある共通した対応が望まれる。これらの対応には基本的な資料の整備が必要であり、平成 13 年度に導入をした『遺跡情報管理システム』を活用し、一層の資料蓄積に努めたい。

敷島町は、平成 16 年 9 月 1 日をもって隣接の竜王町、双葉町との合併が決定しており、文化財部門についても平成 15 年度に 3 町との協議を終了している。

本町では 15 年度より整理調査および重要遺跡整備事業を中心に生涯教育課職員があたり、緊急調査への対応は調査計画までを生涯教育課が行い、その計画、指導のもと発掘調査および整理調査を敷島町文化財調査会が実施し、調査員は民間調査機関からの派遣対応による措置をとっている。このシステムによる 15 年度本調査件数は 3 件であった。

敷島町では、公共事業、民間事業などの開発にともなう〔緊急調査〕と重要遺跡の保存・整備や範囲確認、解説などを中心とする〔学術調査〕、これまでの調査の整理事業の 2 系統に分け、前者を町教育委員会の指導のもと、民間調査機関の支援を受け敷島町文化財調査会が主体となって調査を行い、後者を町教育委員会が主体となり実施するという体制の整備を平成 15 年度から実施している。本年 9 月から施行される新市においても引き続き本体制で取り組むこととなっている。また、包蔵地改定基準などを含む埋蔵文化財保護の執行基準の明文化作業にも取り組む計画である。



- |            |                |
|------------|----------------|
| 1. 泉尻 A 遺跡 | 8. 末法遺跡        |
| 2. 松ノ尾遺跡①  | 9. 三昧堂遺跡       |
| 3. 松ノ尾遺跡②  | 10. 松ノ尾遺跡④     |
| 4. 村続遺跡①   | 11. 村続遺跡②      |
| 5. 金の尾遺跡   | 12. 広城農道 (P16) |
| 6. 松ノ尾遺跡③  | 13. 石原田遺跡      |
| 7. 大塚遺跡    |                |

第1図 試掘調査地点位置図

平成15年度調査一覧

【試掘調査】

No.	遺跡名	調査地	調査 対象面積	調査 原因	種別	時代	主な 遺構	主な 遺物
1	泉尻A	大下条455-1	500m <sup>2</sup>	道路建設	散布地	古墳	なし	なし
2	松ノ尾①	中下条1510-1外	2, 500m <sup>2</sup>	宅地造成	集落跡	縄文・古墳 奈良・平安・中世	堅穴状遺構・土坑	土師器
3	松ノ尾②	中下条1834-1外	1, 483m <sup>2</sup>	高齢者向 アパート	集落跡	縄文・古墳 奈良・平安・中世	なし	縄文 土師器
4	村 続①	島上条443-1外	1, 125m <sup>2</sup>	店舗	集落跡	奈良・平安	土坑・溝	土師器
5	金の尾	大下条458-1	130m <sup>2</sup>	道路建設	集落跡	縄文 弥生 古墳	なし	なし
6	松ノ尾③	大下条41-6外 中下条1882-1外	2, 314m <sup>2</sup>	ガソリン スタンド	集落跡	縄文・古墳 奈良・平安・中世	住居跡 土坑	弥生 土師器
7	大 塚	島上条1744外	2, 681m <sup>2</sup>	集合住宅	散布地	縄文	土坑	縄文
8	末 法	大下条376-1外	2, 052m <sup>2</sup>	宅地造成	集落跡	縄文 弥生 古墳	なし	土師器
9	三昧堂	中下条1103-1外	1, 897m <sup>2</sup>	宅地造成	集落跡	平安	溝状遺構 土坑	土師器
10	松ノ尾④	中下条1884-1外	317m <sup>2</sup>	店舗	集落跡	縄文・古墳 奈良・平安・中世	なし	なし
11	村 続②	島上条258	1, 401m <sup>2</sup>	個人住宅	集落跡	奈良・平安	ピット	土師器
12	広域農道	牛句・亀沢地内	15, 000m <sup>2</sup>	広域農道 建設		なし	なし	なし
13	石原田	島上条669	595m <sup>2</sup>	町道	散布地	縄文	土坑	縄文 土師器

第1表 平成15年度試掘調査一覧表

【試掘調査】 13件 内訳 1表のとおり

【工事立会】 24件 内訳 【個人住宅12件、集合住宅3件、宅地造成2件、倉庫・物置2件、  
下水道工事1件、医療施設1件、店舗3件】

【慎重工事】 26件 内訳 【個人住宅25件、集合住宅1件】

【発掘調査】 3件 内訳 【宅地造成2件、スタンド建設1件】

発掘調査は、敷島町教育委員会、敷島町文化財調査会によって実施されている。

## II. 各遺跡試掘調査概要

### a. 松ノ尾遺跡① (第1図-2)

所在地 敷島町中下条 1510-1 外

調査原因 宅地造成

調査期間 平成 15 年 4 月 1~4 日

調査面積 2,500 m<sup>2</sup>

調査担当 小坂隆司

概要 荒川右岸から約 600 m 離れた微高地上に位置する。

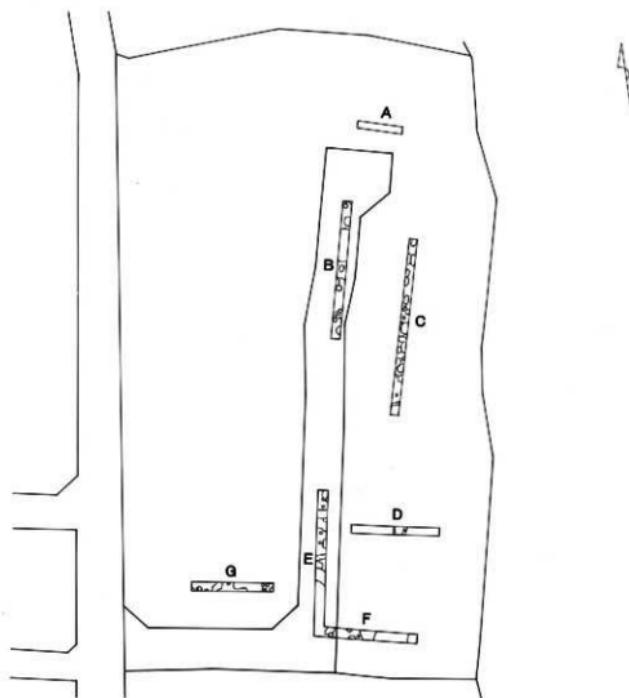
平成 14 年に第Ⅶ次調査を行った地点から北側にある。

試掘トレンチは計 7 本 (第3図) を設定したが、主に中世に属する堅穴状遺構、土坑群がこの一帯に密に展開していることが明らかとなった。

試掘後、平成 15 年 5 月から本調査を実施したところ、弥生時代住居跡 3 軒、古墳時代住居跡 2 軒、平安時代末葉の溝状遺構 1 条、中世後半の堅穴状遺構、土坑群、溝状遺構などが検出された。これらの成果は本年 8 月に本調査報告書として刊行予定となっている。



第2図 松ノ尾遺跡①位置図



第3図 松ノ尾遺跡①調査区(1:750)

## b. 松ノ尾遺跡②(第1図-3)

所 在 地 敷島町中下条1834-1外

調査原因 高齢者向アパート建設

調査期間 平成15年4月16~18日

調査面積 1,483 m<sup>2</sup>

調査担当 小坂隆司

概 要 荒川右岸から約550m離れた微高地東端に位置する。

第5図にみるように開発地域内に計3箇所の試掘トレンチを設定した。中央と南側に設けたA・B両トレンチでは、表土から約30cm下位に、黒褐色の泥土が厚さ最低約30cm以上にわたり堆積していた。黒褐色泥土は南側にかけて層が厚くなる傾向がみられ、A・Bトレンチ内から出土した遺物は、第5図に掲載した平安時代後半以降の羽釜、小皿、壺などの破片であった。

Cトレンチは、上述のA・Bトレンチ周辺に比べ地形が緩やかに高くなる地点であり、本松ノ尾遺跡が占地している微高地の東脇に相当する。

このCトレンチでは、表土から25~30cmの深さが耕作土となっており、約10cmほどの床土層を挟んでさらに下位には約30cmの厚さで堆積した黒褐色土層がみられる。この黒褐色土層は遺物の包含層となっており、細かな破片も多いが主に平安時代後半(11~12世紀代)の遺物が多く出土した。

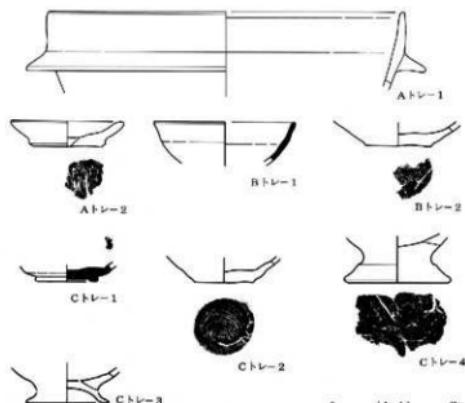
今回、試掘調査の対象となった区域は上述したように松ノ尾遺跡の東端に位置し、A・Bトレンチ周辺は微高地から一段下がった場所で、極わずかな遺物が出土するのみでとくに生活痕跡等はみられなかった。



第4図 松ノ尾遺跡②位置図



Cトレンチ全景



第5図 松ノ尾遺跡②調査区(1:750)と出土遺物

c. 村続遺跡①(第1図-4)

所在地 敷島町島上条443-1外

調査原因 店舗建設

調査期間 平成15年6月18~20日

調査面積 1,125 m<sup>2</sup>

調査担当 小坂隆司

概要 荒川右岸から約750m離れた地点に位置し、村続遺跡の南西にある。

今回、浄化槽埋設部分の試掘調査となり、開発区域内のA・Bにトレンチを設定し調査を行った(第7図)。

今回の試掘で、この周辺の土層が表土層(約20cm)、黒褐色土層(約20cm)、暗褐色土層(約20cm)、以下疊層となっていることが明らかとなった。

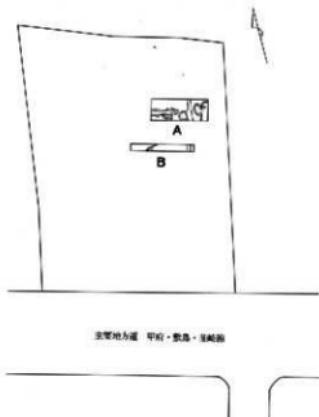
Aトレンチ内は、現代の搅乱が多くみられ、トレンチの東側から近現代の陶磁器を含んだ土坑や溝などが確認された。西側では東西に延びる幅70cm、深さ25cmの溝状遺構とこれと重複した2基の方形を呈する土坑(長軸約120cm、深さ15~25cm)が確認されたが遺物はなく時期は不明である。

Bトレンチでは、暗褐色土層中からトレンチ内の東側にかけて黒褐色の落込みが確認され、豎穴状遺構が存在することが明らかとなった。しかし、今回の調査部分ではこの遺構からはとくに出土する遺物はなく時期は不明である。この他、ピットが1箇所確認された。Bトレンチ内の遺構外からは古墳時代前期のS字型の口縁部や甕などの細かな破片が少量出土した。

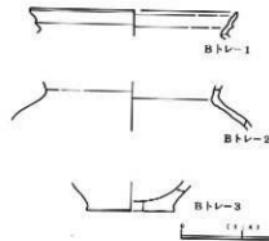
なお、開発側との協議において店舗部分については木造平屋建ての構造であったが地表面下の埋蔵文化財に破壊が及ばないよう盛土保存の処置が取り交わされた。



第6図 村続遺跡①位置図



第7図 村続遺跡①調査区(1:750)と出土遺物



A トレンチ西側

#### d. 松ノ尾遺跡③(第1図-6)

所 在 地 敷島町大下条41-6外、中下条1882-1外

調査原因 ガソリンスタンド建設

調査期間 平成15年9月3~9日

調査面積 2,314 m<sup>2</sup>

調査担当 小坂隆司

概 要 荒川右岸から約700m離れた地点にあり、松ノ尾遺跡の中央東側に位置する。

A~Cの各トレントでは地表面から約80~90cmで遭構が確認された。また、地表面から約50~60cmで黒褐色土層の遺物包含層に達するが、この包含層は20~30cmの厚さで堆積していた。

1号住居跡(第10図) : Aトレントの東側で発見され、東西約4.6mで確認面からの深さ約5cmと浅い。カマドは東壁に位置し、約110×60cmであった。遺物は土師器の壺、壺、灰釉陶器の碗、鉄滓(碗形滓)などが出土しているが、所属時期は平安時代10世紀後半から末葉とみられる。

2号住居跡(第11図) : Cトレントの西側において深掘りを行った際、壁と床面の一部確認した。黒褐色土の覆土を含み、確認された西側壁に近い床面上から小皿2点、脚高高台壺1点が出土し、本住居跡は平安時代11世紀前半に所属することが明らかとなった。

上記の住居跡以外に、土坑(Aトレ3基、Bトレ2基、Cトレ1基)、溝状遭構(Bトレ1条)、住居跡ないし堅穴状遭構2軒(Cトレ)などが確認された。

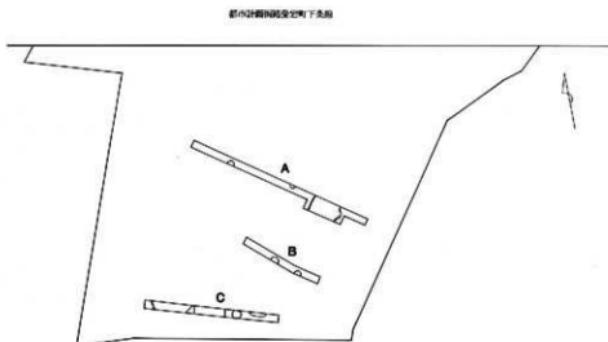
本開発域はその後の協議において本調査が平成15年10月に実施され、古墳時代後半から平安時代にかけての集落跡が調査されている。なお、本調査の成果は、平成17年3月に報告書として刊行予定である。



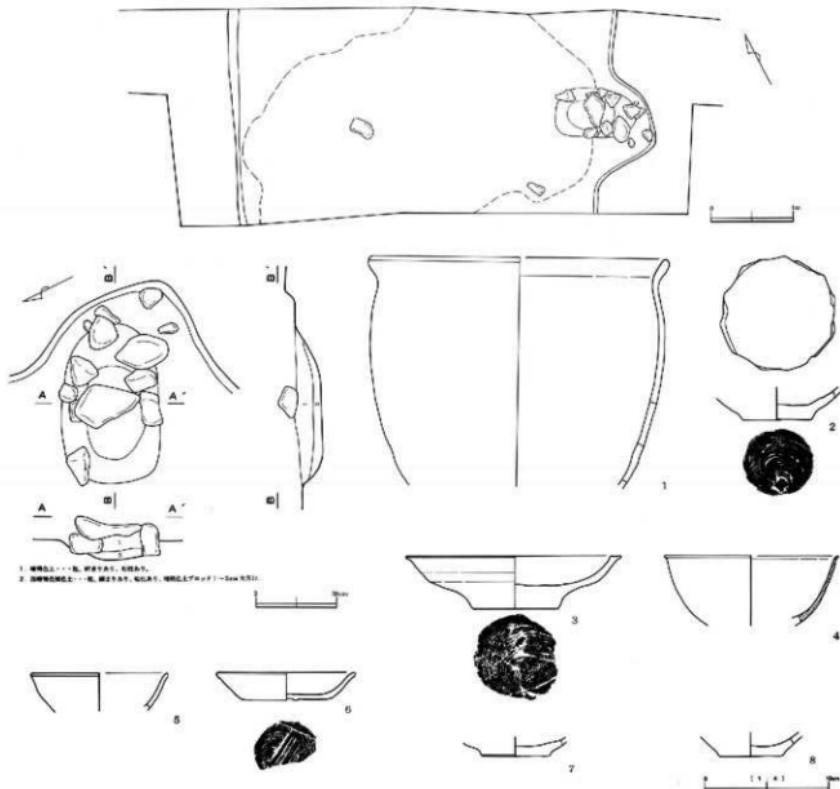
第8図 松ノ尾遺跡③位置図



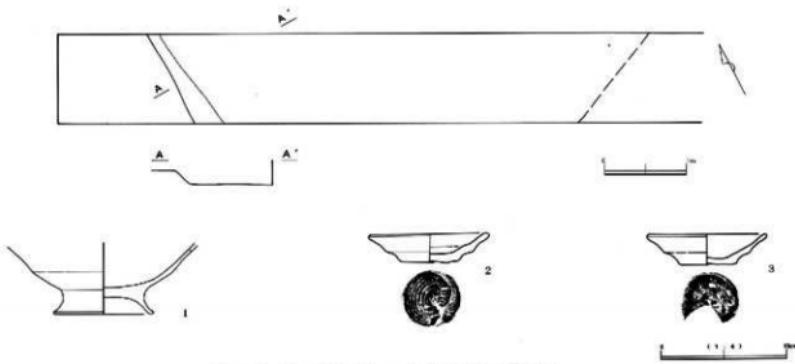
Cトレント西側



第9図 松ノ尾遺跡③調査区(1:750)



第10図 松ノ尾遺跡③ 1号住居跡と出土遺物



第11図 松ノ尾遺跡③ 2号住居跡と出土遺物

### e. 大塚遺跡 (第 1 図-7)

所 在 地 敷島町島上条 1744 外

調査原因 集合住宅

調査期間 平成 15 年 9 月 1・2 日

調査面積 2,681 m<sup>2</sup>

調査担当 小坂隆司

概 要 荒川右岸から約 60 m 離れた地点に位置する。

第 13 図にあるように試掘トレント A～C を設定した。

トレント A は浄化構造設区となる範囲で、地表面下約 30 cm で縄文時代（前期後半）と平安時代後半の遺物が出土す

る遺物包含層が存在したが、とくに造構等は確認できなく、

包含層から出土する遺物の取り上げで終了した。

集合住宅開発予定区域となる場所には、B・C トレントを設定し、調査を行った。

南側のトレント C では、地表面下 30～40 cm で縄文時代前期後半を中心とする遺物の包含層が存在することが確認でき、また楕円形を呈する長軸 50～60 cm を測る土坑を 2 基発見することができた。

また、北部のトレント B においては、地表面下 45～50 cm で黒褐色を呈する遺物包含層が確認され、とくに本トレント東側にかけて縄文時代前期後半諸式（b 古～c 新式）土器が大量に出土した（写真 3）。

トレント B から出土した土器は諸式 c 式のものが大半を占めていたが、器種としては深鉢のほか浅鉢も多く出土し、中には赤と黒の漆が施された「彩文土器」の破片も 2 点出土している（写真 4 上段右 2 点）。

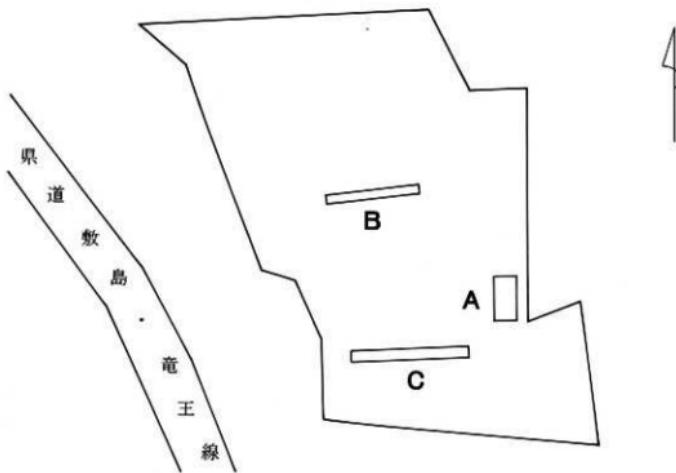
この黒褐色の遺物包含層からは以上の大量の縄文土器とともに、円形の土器片円盤や盤状を呈する土偶 2 点なども出土しており（写真 4）、本地域一帯に縄文時代前期の集落跡が存在する可能性が極めて高い。

このほか、各トレント内からは、石燃、黒曜石の剥片、打製石斧、磨り石などの石器も豊富に出土した。

その後の協議において集合住宅開発地域は盛土と一部設計変更による埋蔵文化財保存の処置がなされた。



第 12 図 大塚遺跡位置図



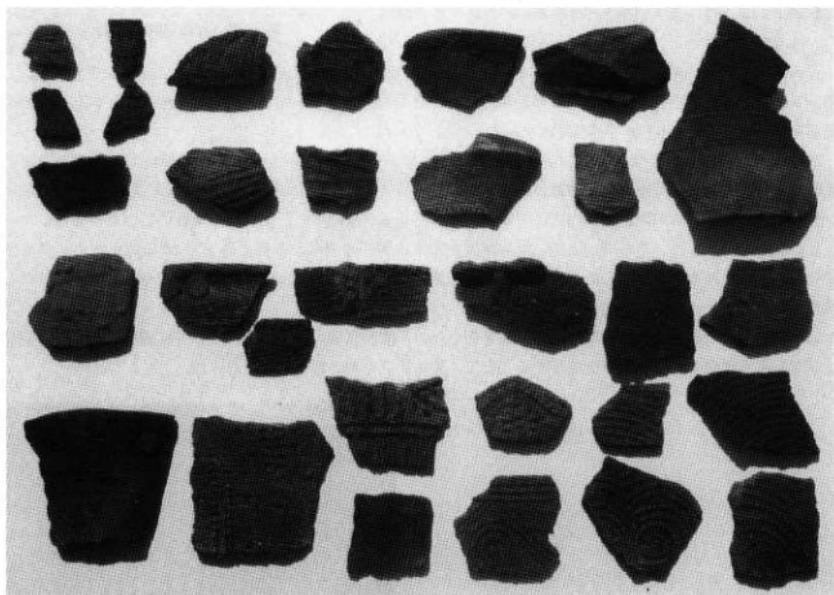
第 13 図 大塚遺跡調査区(1:750)



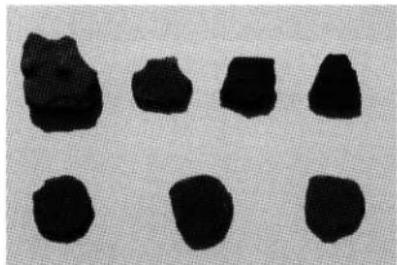
1. 調査区全景



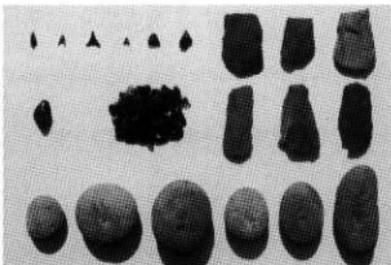
2. Bトレーニチ全景



3. 繩文前期後半諸磁式土器



4. 土偶・彩文土器・土器片円盤



5. 石器（石鋸・剥片・打製石斧・磨石）

#### f. 末法遺跡（第1図-8）

所在地 敷島町大下条376-1外

調査原因 宅地造成

調査期間 平成15年10月15~17日

調査面積 2,052 m<sup>2</sup>

調査担当 小坂隆司

概要 現在末法遺跡として包蔵地指定されている南西端部に位置する。また、平成12年におこなわれた末法遺跡第Ⅱ次調査地点から西へ約100mの距離にある。

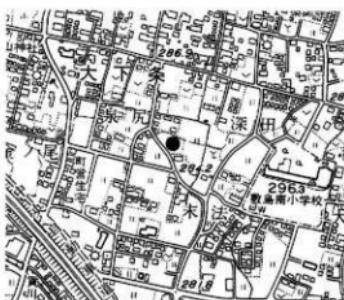
試掘トレンチは、第15図のとおりA~Fの計6本を設定し、調査をおこなった。

その結果、開発区域内のほぼ中央から北東半部にかけて(Aトレンチ、Bトレンチ、Cトレンチ北半部、Dトレンチ北半部、Eトレンチの範囲)の地域では、厚さ約20cm以上の古墳時代前期を中心とする遺物包含層が地表面下約45~50cmで確認された。

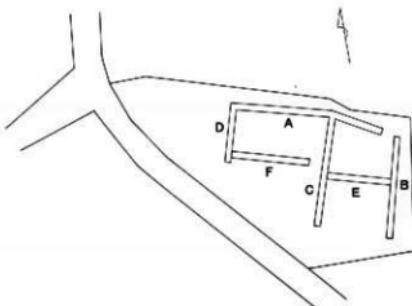
また、開発区域の南西半部(Cトレンチ南半部、Dトレンチ南半部、Fトレンチの範囲)では、遺構や遺物は確認されず、大小の石を含んだ礫層が堆積していた。

以上の結果から、この開発区域内では末法遺跡の南西端部が確認され、南側には遺跡の広がりがみられないことが明らかとなった。そして、上述した本遺跡の第Ⅱ次調査地点は、西側に約100mの場所にあるが古墳時代前期の住居跡や土坑をはじめとする集落跡が発見されていることから、この集落跡が今回の開発区域内の北東半部にまで及んでいる可能性が考えられる。

なお、試掘調査の結果をもとに開発側と協議をおこない、開発区域の北東半部については掘削等により破壊が及ばないよう埋蔵文化財を盛り土保存することで、宅地造成をおこなうこととなった。



第14図 末法遺跡位置図



第15図 末法遺跡調査区(1:750)



Cトレンチ南側

### g. 三昧堂遺跡（第1図-9）

所 在 地 敷島町中下条1103-1外

調査原因 宅地造成

調査期間 平成15年11月4~6、11~17日

調査面積 1,897 m<sup>2</sup>

調査担当 小坂隆司

概 要 三昧堂遺跡の北端部に位置する。

試掘トレンチは、第17図にあるA~Cを設定し調査をおこなったところ、A・Bの両トレンチでは遺構や遺物は確認されなかった。

南部のCトレンチでは、C-1、C-2の2箇所において、平安時代と弥生時代の遺構が発見された。

1号住居跡：C-1トレンチで発見された。規模は、東西約3.7m、南北は確認できた範囲で約2.5mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さ約70cmと深い掘り込みとなっている（第18図）。

また、1号住居跡の南側中央付近の床面には突き固めたような面の広がりがみられ、その西側には長軸約1m程の土坑状の落込みが確認された。本住居跡からは第18図に掲載した土師質土器が出土した。

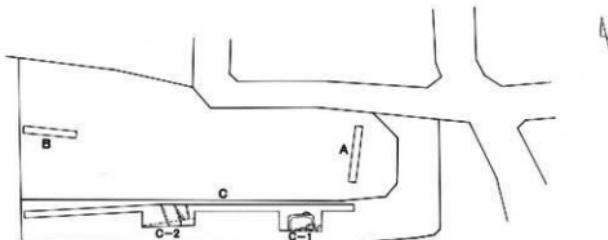
C-1トレンチ内では計4基の円形を呈する土坑が確認され、1~3号土坑は1号住居跡を切っていた。

1号溝状遺構：C-2トレンチ内で発見された。南北に延びる溝状遺構で、確認できた規模は、南北の長さ約3.5m、幅約2.1m、深さ約45cmである。本遺構内には大小の石が堆積していた（第19図）。

なお、発見遺構と遺物が極めて少ないとから試掘調査内で埋蔵文化財のすべての記録保存を終了した。



第16図 三昧堂遺跡位置図



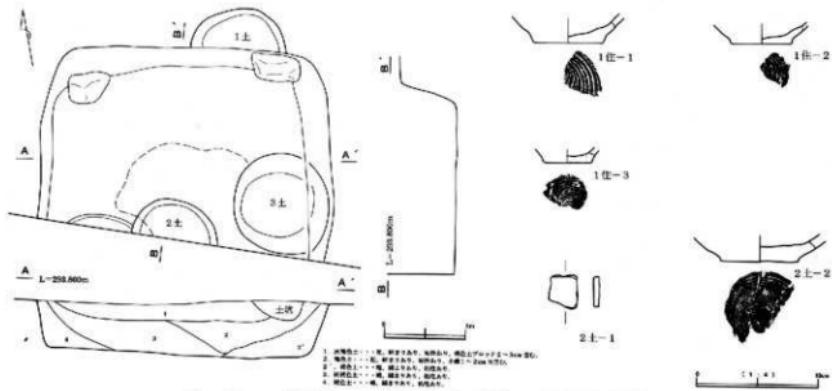
第17図 三昧堂遺跡調査区(1:750)



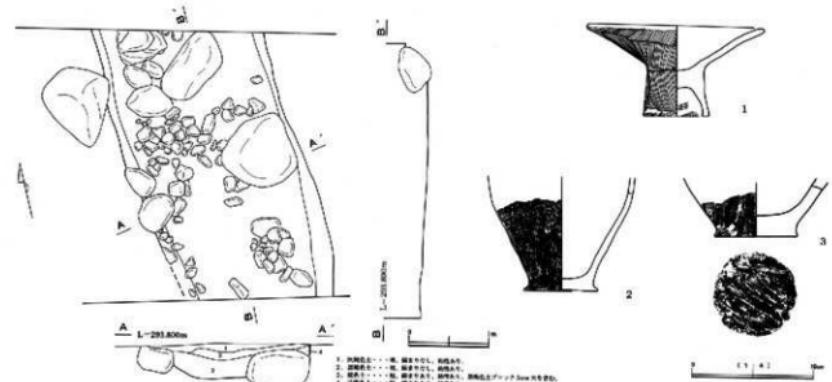
1号住居跡(C-1トレンチ)



1号溝状遺構(C-2トレンチ)



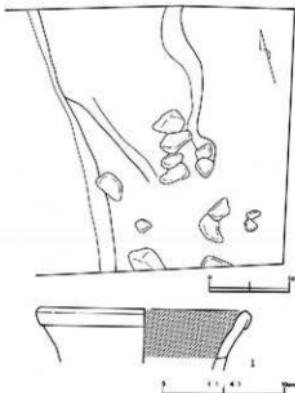
第18図 三昧堂遺跡 1号住居跡と出土遺物 2号土坑出土遺物



第19図 三昧堂遺跡 1号溝状構造と出土遺物



第20図 三昧堂遺跡 遺構外出土遺物



第21図 2号溝状構造と出土遺物

#### h. 村続遺跡②（第1図-11）

所在地 敷島町島上条 258

調査原因 個人住宅

調査期間 平成 16 年 1 月 12~14 日

調査面積 1,401 m<sup>2</sup>

調査担当 大島正之・小坂隆司

概要 荒川右岸から約 400 m の南北に延びる微高地上の東側に位置し、村続遺跡の南東側にあたる。

今回、個人住宅の地耐力調査の結果、現地表面から約 150 cm の深さまで土壤改良工事の必要性がでてきたことから試掘調査を実施することになった。

開発区域内の南北に 2 本の試掘トレンチを設定し、調査をおこなった（第 23 図）。

A・B の両トレンチでは地表面下約 75 cm 前後において黒褐色の遺物包含層が確認され、縄文時代（前期）、平安時代などの遺物が多く出土した。

とくに、平安時代の遺物には 9 世紀～10 世紀後半を中心とする甕、壺類などの土器や須恵器、灰釉陶器が出土し、その他平安時代末葉の土師質土器もみられた。

中には、第 23 図に掲載した灰釉陶器の淨瓶（1）や中国産の錦蓮弁文を施した青磁碗（2）などもある。

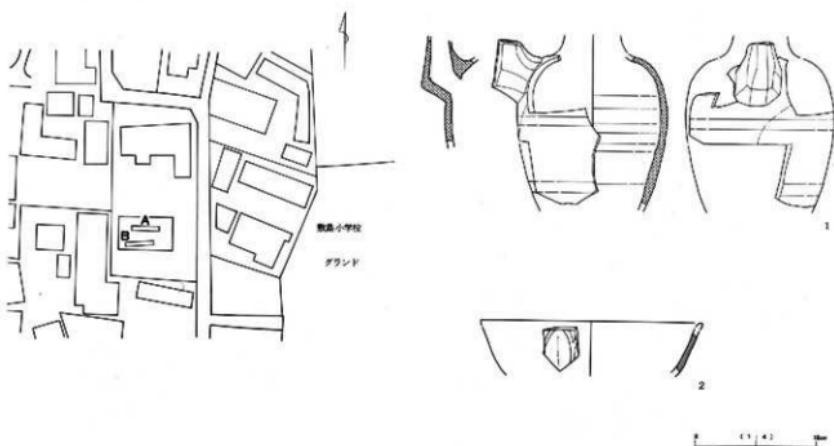
遺構は、今回の調査で住居跡などの明確なものはないが、A トレンチ内の東側でピットが 1 箇所みつかった。



第 22 図 村続遺跡②位置図



B トレンチ全景



第 23 図 村続遺跡②調査区と出土遺物

### i. 広域農道（牛句・亀沢地内）

所在地 牛句・亀沢地内

調査原因 広域農道建設

調査期間 平成 16 年 2 月 18~20 日

調査面積 15.000 m<sup>2</sup>

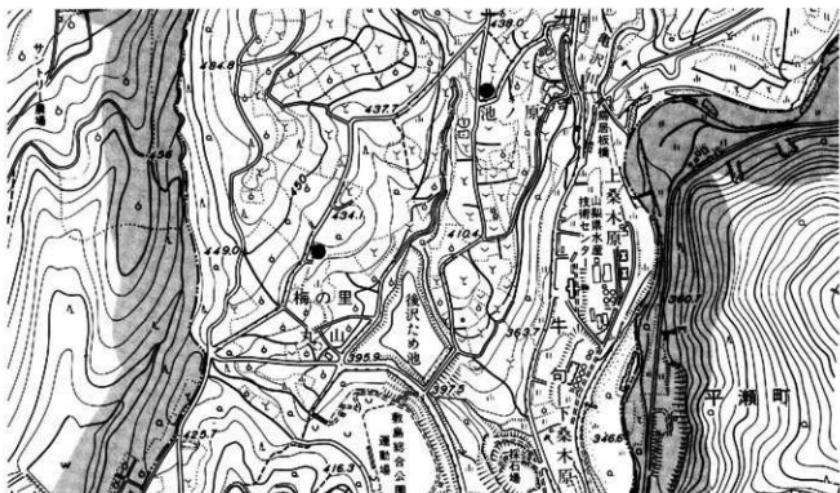
調査担当 小坂隆司

概要 広域農道が新設されることとなった牛句・亀沢地内は敷島町のほぼ中央に位置し、尾根と険しい谷が多く入り込んだ山間地帯であった。そのため、遺跡が存在する可能性が高い緩傾斜部を中心として試掘をおこなうことになった。それにより、代表して 2 地点において計 9 本の試掘トレンチを設定した。

調査区 A：計 5 本のトレンチを設けたが深さ 20~30 cm で地山となり、遺構・遺物は確認できなかった。

調査区 B：計 4 本のトレンチでは、本来谷地形であった場所を盛り土していたことが明らかとなった。

今回の工区では、急斜面と谷地形が大方を占めており、上記の結果のとおり遺跡は認められなかった。



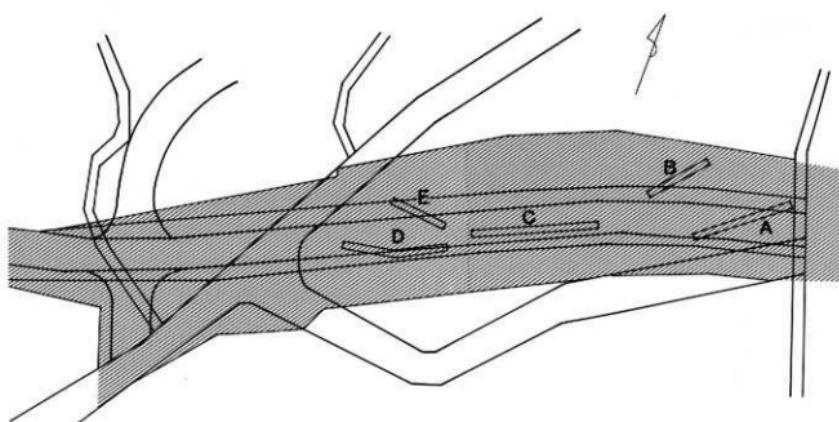
第 24 図 広域農道調査位置図



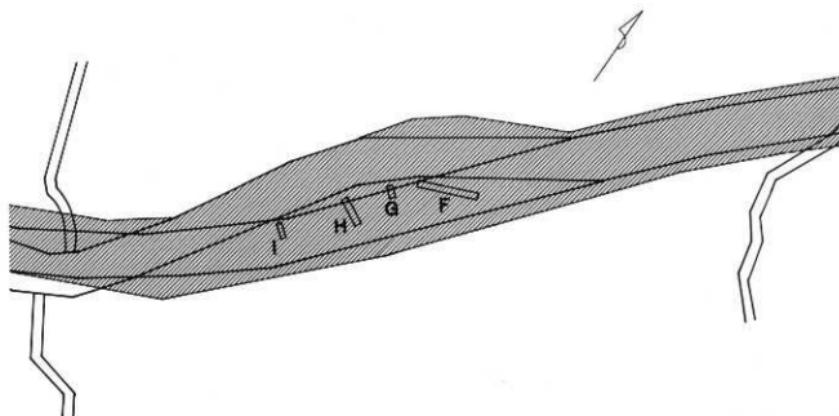
A トレンチ全景



C トレンチ全景



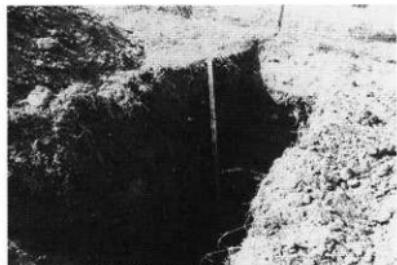
第25図 広域農道調査区 A(1:1000)



第26図 広域農道調査区 B(1:1000)



F トレンチ全景



H トレンチ全景

### j. 石原田遺跡 (第1図-13)

所在地 敷島町島上条 669

調査原因 町道建設

調査期間 平成 16 年 2 月 23~27 日、3 月 1~9 日

調査面積 595 m<sup>2</sup>

調査担当 小坂隆司

概要 貢川左岸から約 300 m の緩やかな高台に位置する。

今回、調査の対象となったのは既存の町道から南側へと新設される町道開発部分と、これより西側に位置する宅地造成予定地域の試掘調査となつた。

第 28 図にあるように、斜線部の町道開発予定区域に調査区 A を設定し、さらに西側の宅地造成予定地域には B・C の 2 部所に試掘トレレンチを設定した。

B・C トレレンチでは、地表面下約 20~30 cm において土器などの遺物が出土しはじめ、さらに下位にかけて 30~40 cm の厚さで縄文時代（早・前期）の遺物包含層が堆積していることが明らかとなつた。

中でも、B トレレンチ西端では地表面下約 70 cm 前後の深さから石器類（稜磨石 2 点、石皿 1、台石 1 点、叩き兼磨石 1 点）や焼け石が押型文土器を伴ない、

しかも面的な広がりをもって出土した（写真 1・2）。

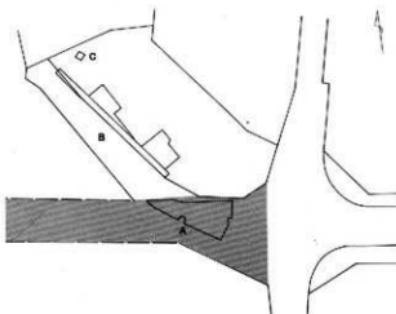
A 区では約 100 m<sup>2</sup> の調査をおこない、土坑 5 基が南側で発見された。出土した遺物には、縄文早期（燃糸文、押型文、条痕文）、前期（諸磯式、十三菩提式）の土器が中心として出土し、石器には稜磨石、磨石、石皿のほか石鏃、スクレイバー、大量の黒曜石やチャートの剥片類などが出土した（写真 7・8）。

特筆されることは、早期の押型文土器（写真 5）が比較的多くみられることで、B トレレンチ西端の出土状況からも周辺に遺構の存在が予測される。

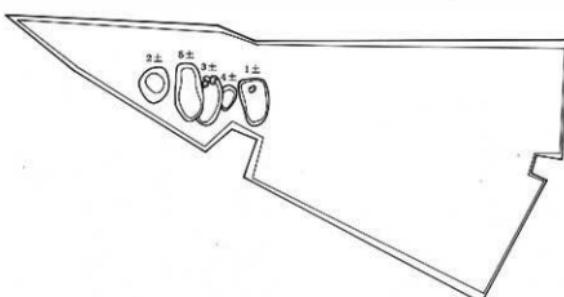
なお、試掘結果から調査区 A の西側部分は平成 16 年 4 月に本調査が実施される予定となっている。



第 27 図 石原田遺跡位置図



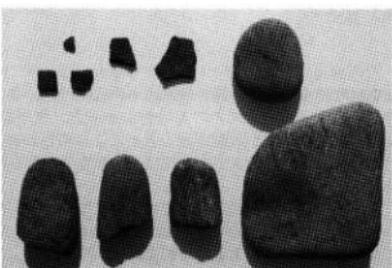
第 28 図 石原田遺跡調査区位置図(1:1000)



第 29 図 石原田遺跡調査区 A(1:150)



1. Bトレーンチ西端



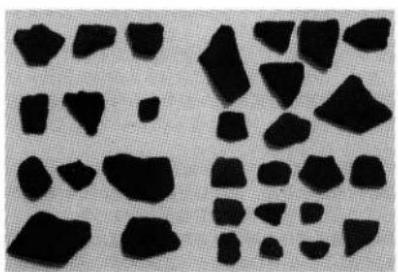
2. Bトレーンチ西端出土遺物



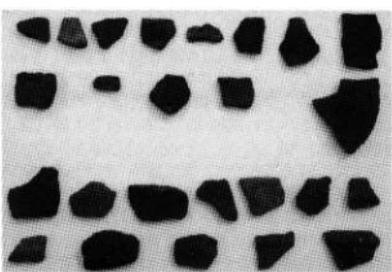
3. 調査区A全景



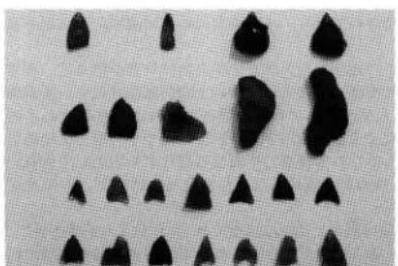
4. 調査区Aの1~5号土坑



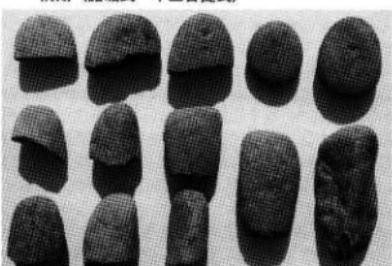
5. 押型文土器



6. 早期(燃系文・条痕文)  
前期(諸穢式・十三普提式)



7. 石器(ドリル・スクレイパー・石鎌)



8. 石器(磨石・稜磨石)

### III.まとめ

今年度は、試掘調査13件、工事立会い24件、慎重工事26件と文化財保護法に基づく埋蔵文化財の保護対応は昨年を上回り、過去最高のものとなった。また、試掘調査の結果、本格的な発掘調査となったものには中下条と大下条管内における3件があった。発掘調査となった中下条、大下条の地域は、敷島町の中でも近年、最も宅地造成や大型店舗の進出により開発が著しく、これに伴い試掘ならびに発掘調査が頻繁におこなわれてきている。このような状況は、3町合併による新市「甲斐市」誕生を目前として、さらに急増するものと考えられる。

以下では、本年度の試掘調査の成果についてその概要をまとめておきたい。

松ノ尾遺跡では、今年度4回にわたり試掘調査がおこなわれ、新たな事実が発見された。これまでの試掘や本調査によって、本遺跡は縄文時代、弥生時代、古墳時代前期の遺構が点在するが、とくに古墳時代後期から平安時代にかけて主体をなす大集落跡であることは周知の事実であった。

今回、松ノ尾遺跡①地点では、中世(15~16世紀代)の遺構が眠っていることが新たに確認され、遺跡の北部地域においては中世後半期の遺構が広い範囲で密に複合していることが明らかとなった。

村統遺跡の一带は、住宅の密集地帯ということもあり、開発行為自体が上記の松ノ尾遺跡に比べこれまで極めて少なく、教育委員会としてもまだ詳しい遺跡の性格については把握しきれていないのが現状である。

しかし、平成13年におこなわれた第1次調査は、現在村統遺跡として包蔵地の指定をされている西側に位置し、調査面積約320m<sup>2</sup>において住居跡36軒という驚異的な遺構の密度であることが確認された。しかも集落跡の存続期間についてみても奈良時代から平安時代の終わりにかけて連綿と継続していた。しかし、遺跡の性格についてはまだ遺跡包蔵地内の極々一部を調査したに過ぎないことから、大規模な拠点的集落跡であったことは推測されるが、古代の巨麻郡における位置付けなど具体的なことはまだ不明といわざるを得ない状況である。

このような中、試掘調査の対象となった村統遺跡②では、遺構の存在は明らかにできなかったが、第1次調査における集落跡の広範な広がりを裏付けるように同時期の遺物が出土したほか、仏教関連とみられる灰釉陶器の「淨瓶」(第23図-1 残存器高12.3cm、最大推定直径12.3cm、注口部先端が欠損)なども伴なって出ている。これは、県内でもまだ数例しか出土していないもので、代表的な遺跡としては大原遺跡(一宮町)、桜井畑B遺跡(伊府市)などが上げられる。今後本遺跡の性格を検討する上で貴重な成果を追加することが出来たといえよう。

三昧堂遺跡は、平成12年度に第1次調査、平成13年度に第2次調査となる本調査がおこなわれ、これまで調査されてきている他の遺跡に比べ、密ではないが縄文、弥生、古墳、平安時代に相当する遺構や遺物が発見されている。今回の試掘では住居跡1軒、溝状遺構2条、土坑4基が発見され、とくに1号溝状遺構からはあまり類を見ない高杯ないし器台状の土器(第19図-1 器高7.5cm、杯部口径14.6cm、底径5.4cm)が出土した。

今年度の試掘調査では、大塚遺跡、石原田遺跡にみるように縄文時代の遺跡の存在が確認されたことが大きい。

これまで、敷島町内では金の尾遺跡の弥生時代、末法遺跡の古墳時代前期、上述した松ノ尾遺跡や村統遺跡などの古代の遺跡が注目され、縄文時代の遺跡は全く無いわけではなかったが、貧弱な存在であった。

しかし、今年度の試掘調査で荒川に近接した大塚遺跡において縄文時代前期後半の遺物を大量に包含した遺跡の存在が確認された。具体的な時期は前期後半諸磯式期に相当し、b式古段階からc式新段階にかけての深鉢、浅鉢(彩文土器を含む)のほか土偶などが出土し、ほかに石鎌、打製石斧、磨石などをはじめとする石器類も数多く出土した。このような内容から、集落跡が存在する可能性は極めて高いとみられる。近隣では荒川の対岸に位置する米草遺跡(甲府市)が集落遺跡として確認されており、本町を含めた荒川流域には該期の遺跡が点在しているものと推測される。

また、石原田遺跡は貢川に近接した遺跡であるが、今回その緩傾斜地の調査で縄文時代早期の燃糸文、押型文、条痕文土器を出土する遺跡であることが判明した。本町ではこれまで最も古い土器が確認されていたのは金の尾遺跡で、第1次調査において押型文土器の小片が1点紹介されていたに過ぎなかった。今年度の本遺跡の調査ではさらに古手となる燃糸文土器が確認され、押型文土器(楕円文・山形文)はやや大型で比較的まとまった資料が得られた。また、これらの上器と共にみられる稜磨石や剥片石器なども出土している。とくにBトレーンチ西端の出土状況は、押型文土器と台石、稜磨石、焼け石などからなる生活痕跡として良好な共伴資料とみられる。

以上、本年度の試掘調査概要をみてきたが、いずれも調査面積は僅かで地味な調査であったが貴重な成果を得た。

なお、平成12年度におこなった町内遺跡についてのGIS導入に引き続き、これまで試掘と本調査で得られた写真関係の記録については、埋蔵文化財のほか指定文化財を含め、劣化の保護や速やかな閲覧に対応できるようデジタル化の作業をおこない、一括管理することとなった。今後も文化財保護と活用に努力していきたい。

## 報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいしくつちょうさねんぽう					
書名	埋蔵文化財試掘調査年報'04					
副書名						
卷次						
シリーズ名	敷島町文化財調査報告書					
シリーズ番号	17					
編著者名	大嵐正之・小坂 隆司					
編集機関	敷島町教育委員会					
所在地	〒400-0123 山梨県中巨摩郡敷島町島上条1020					
発行年月日	平成16年[西暦2004] 3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
いざみじりいせき 泉房A遺跡	本文中のとおり	193928	7	本文中のとおり	本文中のとおり	本文中のとおり
まつのとれいせき 松ノ尾遺跡			1			
むらづきいせき 村続遺跡			18			
かねのとれいせき 金の尾遺跡			43			
おおづかいせき 大塚遺跡			53			
まつぼりいせき 末法遺跡			5			
さんまいとういせき 三昧堂遺跡			27			
いしむらだ 石原田			44			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
泉房A遺跡	散布地	古墳	なし	なし		
松ノ尾遺跡①	集落跡	縄文 古墳 奈良 平安 中世	堅穴状造構・土坑	土師器	中世土坑群、かわらけ、銅鏡。	
松ノ尾遺跡②	集落跡	縄文 古墳 奈良 平安 中世	なし	縄文・土師器		
村続遺跡①	集落跡	奈良・平安	土坑 溝	土師器		
金の尾遺跡	集落跡	縄文 弥生 古墳	なし	なし		
松ノ尾遺跡③	集落跡	縄文 古墳 奈良 平安 中世	住居跡 土坑	弥生・土師器	10~11世紀代の住居跡。	
大塚遺跡	散布地	縄文	土坑	縄文	彩文土器、前期の土器が出土。	
末法遺跡	集落跡	縄文 弥生 古墳	なし	土師器		
三昧堂遺跡	集落跡	平安	溝状遺構 土坑	土師器	大型の溝を確認。	
松ノ尾遺跡④	集落跡	縄文 古墳 奈良 平安 中世	なし	なし		
村続遺跡②	集落跡	奈良・平安	土坑 溝	土師器	灰陶陶器「淨瓶」が出土。	
広域農道		なし	なし	なし		
石原田	散布地	縄文	土坑	縄文・土師器	早期押型文が出土。	

---

敷島町文化財調査報告 第17集  
埋蔵文化財試掘調査年報 '04

発行日 2004年(H16)3月31日  
発 行 敷島町教育委員会  
山梨県中巨摩郡敷島町島上条1020  
TEL(055)277-4111  
印 刷 協和印刷社

---

